様式第２号（第２１条関係）

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長　山本　知也　殿

隊員氏名　大崎　祐暢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：２０２３年１２月分】

１．実施した活動の概要・状況

今月は年末の月ということでいろいろ片付けることが多く、仕事や考えなどの処理が普段よりも多い月であった。自分の仕事を振り返り、「地域おこし」とはどうすれば良いのかを考えることが多かった。また、指定管理施設である、むつ市海と森ふれあい体験館内も大清掃をし、不要な物品を片付けることができた。イベントとしては講師やポスターセッションなど、子供たちに伝える伝え方を試行錯誤することができた。

（主な活動）

◇１２月２日（土）　下北ジオパーク学習活動発表会　ポスターセッション参加

昨年は発表という形で下北ジオパーク学習活動発表会に参加したが、今年はポスターセッションということで参加した。漁師のお手伝いとそれをもとにした考察から得た「脇野沢のマダラ漁に関して」をポスターにまとめ、発表した。マダラという魚の生態や脇野沢とのつながり、脇野沢のマダラ漁に乗船した様子を動画にまとめたもの、そして脇野沢のマダラのこれからの可能性を発表した。

話をしているなかで、水族館での解説の経験が呼び起こされた。ポスター全てを説明しつつ、年代によって求めている情報が違うこと、それを話しながら探り、さらに深く話し込むことである。脇野沢のマダラに興味のある人には後半のマダラ漁の様子や今後の可能性を深く掘り進めること、小中学生には前半のマダラってどんな魚なのかを解説すること、それぞれの年代や性別に合わせて、「自分の話したい」を提供することの楽しさを改めて感じることができた。あわせて、興味のなさそうな部分、飽きが生じた部分なども垣間見ることができた。人を引き込む話し方をこれからも学んでいきたいと思った。

◇１２月５日（火）　脇野沢マダラ漁　場取り

昨年も見に行った脇野沢のマダラ漁の開幕を知らせる「場取り」を、今年も見に行った。朝 7 時出発と聞いていたが、向かう途中で「出発時間が遅くなった」と情報が入った。とはいえ昨年の経験から、定刻前に出発する可能性があることを知っていたため、九艘泊まで車を走らせた。現地にはすでにたくさんの車が止まっていた。朝からにぎやかな九艘泊は見ていてとても気分が良いものであった。今年は昨年に比べ、ギャラリーが多く、「市長が来る」というワードのパワーを改めて思い知ることができた。

「７時３０分に出発する」と情報が入ったが、市長が乗船したタイミングで、昨年と同じ場所に移動した。長靴で来なかったことを公開する羽目になった。ＳＮＳで場取りの情報をアップした際に、ライブ中継をお願

いされていたので、ライブ中継を行うことに専念した。どこかの船がスタートの合図で旗を振り、スタートの合図とともに一斉にエンジンをまわすため、船から黒い煙が出るのが陸側でのスタートの合図となる。陸では、漁師の無事を祈り、大漁旗を大きく振るのが習わしだということを知った。

昨年も見た「場取り」であったが、今年の場取りはたくさんの人が注目した「場取り」であったように考える。脇野沢の日常の風景、仕事風景にも焦点をあてて、より多くの人に知ってもらうことで、それをきっかけに脇野沢の地域おこしにつながることもあるのではないかと考えることができた。漁師さんにとっては毎年行っている恒例行事でありつつ、それぞれの思いがあるかもしれない。その思いをくみ取りつつ、より多くの人に知ってもらうための努力が必要になるのではないかと改めて思い知るきっかけになった。

◇１２月１２日（火）脇野沢マダラ漁　水揚げ

場取りを終えて、網をしかけたあと、船が出られるようになるまで１週間ほど経ったこと、佐井村で多く水揚げされているという話を聞いたことから、網に大量に入っていることが予想されたため、有休をとって水揚げのお手伝いをしに行った。案の定、大量だった。今年から、漁協の人手のサポートは入らず、水揚げは漁師とそのお手伝いだけで行う形になっていた。潮が干潮時の場合、船から陸までの高さがあり、鱈を陸に上げるのは一苦労する。さらにオスのみを箱詰めし、５個を８段積み重ねていく。８段目は身長と力が無いと、１箱 10 kgするマダラの箱詰めを上げるのは難しい。メスはカゴに入れ、１カゴ 30 kgほどのものを力を合わせてタンクに入れていく。それを 40～80 歳の方が率先して動いている状況である。

「身長があり、力仕事が得意」まさに天職であると思っている。いろいろな漁師さんのところのお手伝いをするのはとても楽しく、「お兄さん、手伝って」と声をかけられるのは嬉しい。イベントではないが、これも地域おこしの仕事の一つとして考えても良いのではないかなと個人的には思う。と同時に、これが地域おこしの仕事ではない現状、何が脇野沢の地域おこしにつながるのか、いよいよわからなくなっている。自分が何をすれば良いのか、改めて考える必要がある。

２．翌月の活動予定

１月は年始ということでいろいろスタートをきる月になる。事前に準備を済ませ、時間に追われないように努めつつ、余裕のある仕事をすることでイレギュラーに柔軟に対応していきたい。２月頭には大きなイベントも控えているため、準備を念入りに進めていきたい。

１月　１３日　移住・交流＆地域おこしフェア 2024

１月　１３日　脇野沢たら祭り